

## 令和6年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	商工観光労働部
日 時	令和6年(2024年)4月17日(水) 13:10~14:00
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、江島副知事、大杉副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 部長、次長(兼)管理監(女性活躍担当)、管理監(産業立地担当)、観光振興局長、商工政策課長、産業立地課長、中小企業支援課長、イノベーション推進課長、労働雇用政策課長、女性活躍推進課長、観光振興局副局長(兼)観光企画室長、労働雇用政策課産業ひとづくり推進室長、観光振興局シガリズム推進室長、観光振興局ビワイチ推進室長

発言者	発言概要
部長	「滋賀の産業を担うひとづくりの推進」については、協議会を起点にして、広く中長期的な視野で議論をしっかりとしていきたい。 「産業の創出と中小企業の活性化」については、中小企業が元気であることが最も大事であるので、起業・創業、スタートアップ、事業承継などにしっかり取り組んでまいりたい。 また、産業用地の開発は、難しい面もあるが着実に取り組んでまいりたい。 「シガリズムの推進強化」については、シガリズムの意味をしっかりと改めて進めていきたい。
総合企画部長	シガリズム観光誘客キャンペーンの推進における、万博バスツアー助成の検討状況はどうか。
シガリズム推進室長	国内旅行事業者に、県内宿泊と万博のチケットを合わせたバスツアーの造成をお願いすることとしており、万博の半年前から実施したい。 宿泊場所の予約は大阪市内がピークになっていることから、滋賀での宿泊予約については旅行事業者も賛同している。
知事公室長	ここ滋賀では、本屋大賞の「成瀬は天下を取りに行く」の情報発信を積極的に実施しているが、さらなる取組を検討しているのか。
観光振興局長	ここ滋賀は、首都圏からの情報発信の拠点でもあり、メディアへの発信のさらなる強化を図りたい。また、今年度は、首都圏の中で滋賀県の関係者が集う場作りもしたい。
知事	ここ滋賀から本県への誘客は、コンシェルジュが頑張っている。ファンも生まれ、旅行案内もできている。例えば、旅行商品を見て滋賀に来たことがわかるなど、成果がわかるようにしていこう。
次長	ここ滋賀は、今年、次のあり方について検討していきたい。
大杉副知事	1 点目、イノベーション推進課はいろんな繋がりを持つことが重要。県内大学とのつながりに加え、内閣府、文科省、経産省など国と活発に意見交換して、政策を考えてほしい。 2 点目、産業ひとづくり協議会について、人選に加え、現状の課題解決を議論するのか、ひとづくりのあり方を骨太に議論するのか、しっかり考えて進めてほしい。 3 点目、組織目標に掲げる女性活躍の目標は非常に大事。さらに、女性技術者の育成や、グリーンリスクリングなど、部全体の目指す方向性と女性活躍のあり方を照らし合わせて、考えてほしい。 4 点目、観光は1つのモデルを作るより、カスタムメイドできるメニューを用意する必要がある。そのためには、本物を伝える施設や人のコミュニケーション力を上げることが必要と思う。
イノベーション推進課長	国と一緒に政策を考えることのご指示をいただいたが、いろんな人と繋がりを深めることが大切と理解している。 課内でも、技術職、事務職が互いの考え方を理解し合うことで、プチイノベーションが起きている。こうした繋がりを、庁内にも技術を通じて解決できないか考え、大学あるいは企業、それから国へと、繋がりを増やしていくというメッセージを課員に伝えていきたい。
産業ひとづくり推進室長	イノベーションや産業立地における課題、女性技術者、グリーンリスクリングの全てがこの協議会に関わってくるので、中長期的に大きな視点を持ちながらも、喫緊の課題として、若者の定着やリスクリング、外国人との多文化共生など、働く文化や日本語の理解、生活についても、議論をしながら進めていきたい。
女性活躍推進課長	産業を担うひとづくりにおいて、グリーンリスクリングや技術人材の育成の意味でも、目標に小中高等学校における男女共同参画社会づくりのための副読本・教材活用率80%を掲げている。 理系に進む女性が少ないため、性別に関わらない進路選択ができるように、教育委員会と協力して副読本の活用を進めてまいりたい。
観光振興局長	カスタムオーダーの対応は難しいが、関係者に問い合わせながら対応している。 関係者の範囲を広げたり、深く交流することで、臨機応変に対応できる力が高まっていくと思うので、着実に取り組みを進めていきたい。

江島副知事	<p>1 点目、水環境ビジネスに期待したい。新たな展開への思いを教えてください。</p> <p>2 点目、産業誘致と留め置きの両方が重要。今年度、特に力を入れたいところを教えてください。</p> <p>3 点目、本県の国スポ・障スポでは、約1,148億円の経済効果があると試算された。ツーリズムには一番影響があると思うので、経済効果を大きくするためのものを考えてほしい。また、万博でどれほどの経済波及効果を狙うのか、試算して、モデルを作ってほしい。</p> <p>4 点目、2026年の大河ドラマ「豊臣兄弟!」、今年の「光る君へ」など、まさにチャンスで、映像で何ができるのか、考えてほしい。</p>
商工政策課長	<p>「しが水環境ビジネス推進フォーラム」の立ち上げから10年が経過した。実績も出ているが、成果が見える化されていない。例えば、昨年度、海外とのビジネスマッチングは成約件数だけで40件を達成している。また、海外でのプロジェクトも成果の見える化を通じて、参画企業を増やし、取組の進化につなげたい。</p> <p>こうしたプラットフォームは、水環境以外、例えば、脱炭素やサーキュラーエコノミーといった分野にも応用できると考えており、幅広い企業が参加できるように枠組みを検討したい。</p> <p>また、企業の海外展開を促進するため、世界一の健康長寿エリアとなった本県の特長を踏まえ、ヘルスケア分野におけるビジネス展開のイメージも持っている。</p>
産業立地課長	<p>上半期に本県の、どこに、どの程度の広さの工業団地を造るのがよいか、分析したい。</p> <p>また、特色ある工業団地をつくりたい。竜王工業団地では、企業負担金を原資として、シルバー人材センターが道路清掃をしている。農福連携があるなら、工業と福祉の工福連携があってもいいと思う。</p> <p>例えば工業団地の一角に施設を設置して、障害をお持ちの方に関わっていただくなど、特色を生かした仕組みづくりをしたい。</p>
シガリズム推進室長	<p>経済効果はしっかり測定していきたい。バスツアーも含めて数は把握できるので、「今こそ滋賀を旅しよう!」の結果を踏まえて、今後、細かいデータと組み合わせで見せていきたい。</p>
知事	<p>経済波及効果は、レガシーづくりにも絡む。今ある数字も変わっていくので、国スポ・障スポ・万博も含めて、商労中心にまとめていくことにしよう。</p>
観光振興局副局長(兼)観光企画室長	<p>映像誘致については、全国各地からオファーをいただいております、スタッフ3名が連日のように現場へ出て支援している。案件は、映画、ドラマ、CMなど多くあり、より滋賀県にメリットがある部分を手厚くやっていきたい。</p> <p>現在、ホームページやFacebookなど静止画が中心なので、動画にも取り組み、発信力を高めたい。</p>
管理監(産業立地担当)	<p>産業立地は、今年度から課に格上げされ、産業立地戦略を策定し、本年度から推進していく。</p> <p>また、県自ら用地開発をしていくとともに、新たな産業立地戦略推進助成金では、最大10億円を、企業の設備投資に対して支援をさせていただく。</p> <p>課長からも、留め置くことが大事との話もあったが、これまでの経験を踏まえて言っていただいていることで、大事にしていきたい。</p> <p>産業立地戦略において、アプローチを強化するとしているので、積極的に企業に訪問し、新しい助成金をPRするなどしていきたい。</p>
中小企業支援課長	<p>昨年度、中小企業活性化推進条例を改正したので、地域社会の課題解決、産業を担うひとつづくり、危機管理の向上に積極的に取り組んでまいりたい。</p> <p>また、ドイツの中小企業政策については、昨年中より若手職員が中心になって勉強会を開いているので、今年度さらに深めていきたい。</p>
労働雇用政策課長	<p>喫緊の課題である、人材の育成・確保について取り組めるよう、滋賀の産業を担うひとつづくりの推進について、重点的に取り組んでいく。</p> <p>このため、産業界、大学、労働団体、行政機関からなる「産業ひとつづくり推進協議会」を立ち上げ、今働いている人、これから働こうとする人、また県内事業者、地域経済社会の全てが成長し、幸せを感じられるよう、施策を具体的に実行できるよう検討を進めていく。</p>

知事

水環境ビジネスにこだわりたいというのは、とてもよかったと思う。何年かけてどこまで行くのか、一緒に共有したい。

産業立地は、誘致だけでなく留め置き。投資も含めて、その姿勢が新たな誘致に結び付くと思う。工福連携という考え方もよい。

中小企業の事業承継、特に北部振興に力を入れることもよい。ドイツの中小企業政策を生かし、施策に生かしてほしい。

イノベーションは課を新設した。すでに課内でイノベーションが起こっているとの心強い言葉をもらったので、大学と連携して、スタートアップの促進に取り組んでほしい。

労働雇用政策課は、産業ひとづくり協議会を動かして、頑張ろう。

そして、これらを産学官でやるということ、工業技術総合センター、信楽窯業試験場、東北部工業技術センターを大いに活用、発信してほしい。今後、工業技術総合センターに「デジタル高速無線通信・EMC評価ラボ」が5月から供用開始となる。他府県とも連携し、人や技術の魅力を発信してほしい。

観光振興局は、シガリズムをシン化させよう。映像ロケーションオフィスは映像を生かすチャンス。ピワイチは道が整備されてきた。サポートステーションや、サイクリストに優しい宿の提供とか、ピワイチプラスとか、もっともっと発信してほしい。

今年度の予算は「ともにいきる」と表現した。このキーになるのは、商工観光労働部だと思っている。ともに働く、ともに稼ぐ。

その意味で、女性活躍推進課にも関わるが、「ジェンダーギャップの解消」と「多文化共生」に、ぜひ力を入れてやりたい。これなくして「投資」と「人」は呼び込めない。

あらゆる施策にこの「ジェンダーギャップの解消」と「多文化共生」を入れ込んでほしい。多文化共生なくしてイノベーションなし。このことをお願いして、私のコメントにしたい。